

技術士青葉会会報

東北大学関係者との交流会開催

副会長 佐藤 光雄

日本技術士会全国大会が仙台市内の仙台国際センターで開催されたことから、せっかくの機会を利用して、総会終了後の最終日の午後には東北大学関係者との交流会を開催しました。当日は、荒野会長が海外出張のために、私が会長代行を務めることになりました。

●開催日時 平成二十一年十月十六日（木）

●場所 交流会 東北大学青葉山キャンパス

工学研究科総合研究棟二〇一室

懇親会 同研究棟一階レストラン

●参加者数 大学関係者五名、当会十一名

●概要

高橋富男会員から当会の活動状況を、会報第一号にて紹介し、塩谷知的財産部長および戸産学連携課リエン室長より産学連携推進本部の活動状況、東北イノベーションセンターの熊谷社長からベンチャー起業支援について、また、東北テクノアーチの井裕社長から大学技術移転について説明があった。時間が少ない事もあって、情報交流は懇親会にて行われた。懇親会には、十三名が参加し、はるばる九州から参加された泉館会員の乾杯の音頭で開宴し、名刺交換を含めて活発な交流が行なわれました。帰りの新幹線の時間も残り、十八時半に塩谷知的財産部長の一本締めで中締めとなり閉会しました。



懇親会風景



交流会参加のみなさん

第2号

2010年8月15日

技術士青葉会

千葉市稲毛区宮野木町 1664-67

発行責任者 荒野 喆也

consult.kohya@nifty.ne.jp

投稿・ご意見は大歓迎

幹事会報告

開催日時 平成二十二年十二月八日十六時から
場 所 日本技術士会第一番手ビル会議室

議題

- ① 二十一年度総会の企画内容審議
日程、場所、講演内容について審議決定
- ② 東北大学関係者との交流会報告
当日の参加者、交流会、懇親会の状況
会計状況の確認
- ③ 年会費未納者に対する納入促進策について、郵便振込請求書の送付を検討する。
- ④ 会員拡充について
技術士二次試験合格者への指導支援などを強化する策も検討する。

会員募集のご案内

技術士青葉会では会員を募集しています。
東北大学および仙台工業専門学校出身の技術士・技術士補の有資格者（正会員）と東北大学に在籍し、本会の目的に賛同いただける者（準会員）のご紹介をお願いします。

年会費は千円です。

申し込み先 荒野会長まで

第二回総会ルポ（日本技術士会専手ビル会議室）

平成二十二年三月二十七日 十三時から
参加者 二十名（他に委任状10名）

- 一 総会
- ・ 2009年活動実績、会計報告、会計監査報告を承認
 - ・ 2010年活動方針、活動計画、予算計画を承認
 - ・ 副会長に高橋富男幹事を選出し承認
 - ・ 年会費納入方法の確認
 - ・ 産学連携、ベンチャー企業支援
- 東北イノベーションシヨンキヤピタルのHPを見て、関心があれば、高橋副会長を窓口で積極的にアプローチする。
東北テクノアーチに松本京子幹事が所属することになったことから、窓口的業務をお願いする。
- ・ 2009年度新入会員は七名となった。
- 二 特別講演

「児童の理科離れ対策と技術士の役割」
講演者 荒野 詰也会長
自ら千葉県を中心に取り組んできている理科支援事業と、技術士の関わりについて、事例をまじえた興味のある話であった。技術士青葉会委員を含めて仙台周辺地区でも実績を上げている活動状況の説明があった。

三 懇親会
総会、講演会に続いて、同会場で懇親会を行い、近況報告や情報交換が行われた。

東北大学ホームカミングデーのご案内
平成二十二年十月九～十日 事前申込み必要 参加費無料
申込み先 東北大学総務部広報課校友係
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
TEL 022-217-5059 FAX 022-217-4818
URL: <http://web.bureau.tohoku.ac.jp/alumni/>



乾杯の音頭の三浦さん



講演中の荒野講師



中締め音頭の松本幹事



懇親会参加者集合写真

「会員寄稿」

上海万博雑感 荒野 詰也（機械・総監）

中国に関する情報として温暖化ガスの排出量が、世界一となったとか、国民総生産が日本を抜いて、まもなくアメリカを次ぐ位置になるとか、兎に角、量的な面での存在感は突出してきている。また、科学技術等の質的な面でも、その躍進振りも脅威となりつつある。その躍進の原動力に少しでも触れたくて、上海万博にでかけた。今回滞在したのは、二泊三日であり、「針の穴から天をのぞく」のそしりを承知で感じたままを述べてみよう。



◎万博雑感：万博の成否を誇示するための指標は入場者数である。中国の目標は、過去最大の 6800 万人大阪万博を抜いて 7000 万人を目指している。筆者が入場した六月四日（木）の入場者数は約 432,000 人と発表されウィークデイにも拘わらずかなり混雑していた。例えば、見たかったハイテク日本館は夕方まで長時間待ちで入館を断念せざるを得なかった。しかし、中国館は工夫もしながら効率的に入館できた。目標の数字は、開催期間が9ヶ月であり、平均毎日8万人で達成出来る計算になる。しかし、開場直後は、出足が悪く、政府は、慌てて全国の国有企業を中心に動員令を発し、まもなくそれが利いて、多くの団体が入場の証「万博パスポート」を片手に集団で展示物見学そつちのけでパスポートへの捺印収集に励んでいた。そして、朝から晩まで機械的に捺印作業を繰り返しているうんざり顔のコンパニオンの存在もあったが、七月二十日の発表では3800万人確保とのこと、なんとかクリヤーできそうである。中国館の印象は広い中国の各地域色のPRが主体であった。印象としては、チベット地域等の辺地・異民族に対する心配りがかなりされていた。また、資源供給国等として今後注目されるアフリカ諸国の大アフリカ館があり、多くの国がPRし、個性あるお土

会費納入のお願い

配布された名簿に登録されていて総会等に参加されていない人で本年分の年会費1000円未納の方は、下記の口座に振込をお願いします。

郵貯銀行 総合口座記号10270
番号19180351
名義人 千葉 俊雄

産品が並んでいた。裏話としては、これら土産品は殆どが中国で生産され、知的財産権の面で問題化しているとのこと。上海万博のテーマソングの問題も含めて中国らしいところではある。以前には行列待ちで大衆のマナーが心配されていたが、トランプらしいのも目撃されず、期待以上であった。

また、面白かったのは、多くの人が行列待ちの間、生のキウウリを持参しガリガリかじっていたことであり、まさに自然な素朴な食品と近代的パビリオンとの対照となっていた。

◎市中雑感：上海の交通手段は地下鉄が主であり、複線路線が交差しながら、色分けされて利用しやすくなっている。著者も何回となく利用したが、二回ほど若い人が座席を立て譲ってくれた。この確率は、日本での経験からするとかなり高いと感じられた。これは中国・韓国などに伝統的に残っている長幼の序に対する礼の一端を垣間見ることができ、日本にも残っていて欲しいもの1つであると思う。また、今回、旅行会社を通じて雇った若い女性のガイドさんに、どうしても滞在中入手できなかった、お土産品を買って送付してくれるように現金を前渡しして頼んだ。以前の中国のイメージなら絶対しなかったであろう事をあえて物は試しとやってみた。結果は信頼を裏切らなかった。この一件で、半ば斜めに見ていた中国の発展をころよく願うようになった。人間とは現金なものである。

合気道三昧



鈴木俊康 〔機械〕

合気道は相手といたずらに力で争いません。入身と転換の体捌きから生まれる技によって、お互いに切磋琢磨し合つて稽古を積み重ね、心身の錬成を図るのを目的としています。合気道の稽古に終わりはありません。稽古をはじめたら根気よく続けることです。稽古を続けることが進歩への第一歩であり合気道の大切な一面でもあるのです。

私は大学に入ってから合気道を始めました。最初は合気道部に入つて強くなり、新勧演武で見た先輩のあのかっこいい姿勢で演武をしたいという動機でした。大学生生活では東北大学合気道部創始者の宮川先生のおかげで格調高い座学を聞いて、今自分は深遠な武道を習っているのだという自意識と、やはり仲間との楽しい稽古・飲み会（馬鹿騒ぎ）でした。

卒業して会社（日本鋼管）に入ってから十年位のブランクがありました。合気道の町道場（神奈川県相模原市）の近くに新居をもうけてからはずっとその町道場でお世話になりました。この町道場での合気道生活は学生時代とは全く異なるものでした。町道場に合気道の稽古に来る人たちは社会人がほとんどでその目的も老化防止、エステ目的、喧嘩に強くなりたい、ビールをうまく飲むために汗をかきたい、等色々でした。町道場は町道場なりの面白さもありここでも飲んで騒いでほとんどの楽しい思いでばかりでした。九年前に私の出身地塩竈にあるJFEビルディング（旧日本鋼管の子会社）に向向転動しました。塩竈に来てからは東北大学合気道部の大先輩が道場長をしている宮城県武道館の合気道教室に入門させてもらいました。おかげさまで五段をもらうことができました。

三年前に転職をしてしまいました。この会社は広島県福山市に本拠を構えフリーピン、中国にも造船工場を保有する造船会社で、日本でも数少ない元気な上り調子の大手造船会社です。私はこの会社に合気道部を作つて部員五名と一緒に汗を流しております。

この後現在の会社にお世話になっております。今お世話になっている会社は福岡にあります。この福岡には開祖の最後のお弟子さんになる菅沼八段がいらつしやりの道場に時々顔を出しています。温厚な先生ですが、合気道独特の強さを持つており学ぶところが多く充実した稽古をさせてもらっています。

ところでなぜこんなに合気道が魅力あるのかという考えをみますと、やはり私自身の成長過程でその魅力が変化していることに気づきます。

最近何となく、合気道は昔大学の哲学で習った「Aufgaben（止揚）」を格闘技で表したものでないかなと感じています（諸先生、大先輩には笑われてしまうと思いますが）。「合気神髄（開祖植芝盛平語録）」にもありますが、「武道の根元は神の愛万有愛護の精神」。また、「真の武道に敵はない、真の武道とは愛の働きである。それは殺し合うことではなく、すべてを生かす育てる、生成化育の働きである。愛とはすべての守り本尊であり、愛なくばすべては成り立たない。合気道の道こそ愛の現れなのである」とも仰つております。また開祖盛平翁の弟子であった塩田先生が素人受けする発言で「合気道とは自分を殺しにくる奴と仲良くなる技（正確にこういつたかどうかは別にして趣旨はこうでした）」と仰つていました。何か昨年の大河ドラマ「天地人」の主人公直江兼継にも通じるころがありますね。

今自分の年齢は57歳です、以前はこんなことしたら会社でよく思われないのでとはか考えて思つたことを存分に実行できない小心者でしたが、最近は何故か度胸が付いてきてこれからは自分の好きなことに打ち込んでいこうという気持ちになってきております。

やはり合気道も長くやっているとその年齢にあった稽古・解釈ができるんだなと思つております。一つのことを長く続けるといふことは大事なんだとつくづく感じています。

今年の十月九日（十日）には東北大学合気道部の五十周年記念演武会があります。その時には是非私も出席して諸先生、諸先輩、また懐かしい仲間と会つてうまい杯を傾けたいと思います。

2010年8月10日 塩竈の寓居にて

地元町内「西なぎさ」での清掃活動による

「江戸前の海」を護る地域貢献の事例

橋爪 慶介(建設・総監)

葛西の海の話

1960～1970年代に、都心部の再開発を推進すべく、またゴミ処理施設の必要性から、東京湾沿岸の各地で埋め立てが行われ一気に豊かな海が失われた。東京海苔の養殖やあさりの生息する葛西の海もその開発の影響を多大に受けたのであった。

しかし、埋め立てによる干潟の消滅と野鳥や沿岸の水生生物の生態系の破壊の代償措置として、東京湾沿岸の再整備が計画され、実施された。その主たる整備事業のひとつが、葛西臨海公園・海浜公園の整備である。ハゼの生息地・バードサンクチュアリーの確保を目的に葛西人工干潟及び既公開の西なぎさと未公開の東なぎさが、1980年後半～1990年前半に整備されたのである。

葛西海浜公園周辺海域の現状と課題

現在、葛西の海には加速度的に自然回復力が増している。春にはアユの稚魚が育ち、荒川や旧江戸川を溯上している。また江戸前寿司の高級魚であるヒラメやサヨリなどの稚魚も生息していることも確認されている。特に環境省のレッドデータブックに記載されているエドハゼやトビハゼが東西の人工なぎさに回帰している。公園内の野島も、立入り禁止の環境が整備されているため、都心における野鳥の楽園となっており、渡り鳥の希少種も飛来している。

しかし、残念なことに葛西臨海公園・海浜公園は、大きな二つの川に挟まれている地連上の理由から、人工なぎさに河川からの漂流ゴミが絶えないのも事実である。漂流ゴミはいうまでもなく干潟海中の酸素不足を誘因するほか、底生生物の生息を阻害、水生生物や野鳥が誤飲することもあり、非常に厄介な存在である。

人工なぎさに漂着する漂流ゴミは、公園管理地内である点と、次々と止め処もなく流れてくる点で、無関心さから日常的に収集されない状態が続いていた。一方公園内では、様々な自然観察系及び文化活動系のNPOや団体が活躍しているが、日常的に漂流ゴミを減少させる手立てはほとんど施されていなかった。

地元住民及び技術士としての使命

葛西臨海公園と同じ町に住む「地元住民」として、また「技術士」として、私自身が地域貢献できることはないだろうか？と考え、まず行動をおこしたのが、週末の西なぎさでの清掃活動である。地道にひとり1年以上継続していくうちに、次第に地元NPOや行政から関心を呼ぶ存在となり、行政団体からは「協働」で活動したいと申し出られる程となった。

「西なぎさ」発：東京里海エイド」の活動

様々な方の支援もあり、今年度から毎月第二土曜日は公園サービスセンターと市民との「協働」で「西なぎさ」発：東京里海エイド」としての活動に成長し、自然観察を同時に開催している。上場企業の社会的責任(CSR)活動としての参画や問い合わせもあり、徐々に活発化している状況である。

社会の共感を受けた経緯・理由として、単に清掃活動をするだけでなく、中長期ビジョンや活動の様子、公園内で体験する生物多様性の実録を市民目線でWEBにて情報公開している点であると感じている。

今後の展望

協働活動は始まったばかりである。根本的に人工なぎさへ漂着する「漂流ゴミ」の問題解決ができたわけではない。今後の活動の展開としては、より多くのステークホルダーと共に清掃活動を活発化すると同時に「漂流ゴミ」のトレースナビリティなどをすすめ、根本的に「漂流ゴミ」削減の問題解決方法を思考し、対策立案と実践を行い、その成果を確認していきたいと考えている。



(本稿は「技術士」
2010.9の掲載文
の抜粋・編集です)

役員

会長	荒野 詰也 (58 機械) (機械・総技監) consult.kolbya@nifty.ne.jp
副会長(総務)	佐藤 光雄 (61 機械) (機械) Satoh.mitsu@leaf.ocn.ne.jp
副会長(広報)	高橋 寛男 (64 金属) (金属・経工) Tomiock41@cpst.pala.or.jp
幹事(総務)	河相 雅史 (87 精密) (機械) RXI.00011@nifty.ne.jp
幹事(総務)	安藤 克己 (77 機械修) (機械・総技監)
幹事(広報)	菊山 紀彦 (66 金材修) (金属・宇宙)
幹事(会計)	千葉 俊雄 (58 機械) (経営工学) Iromami.chiba@nvc.biglobe.ne.jp
幹事(会計)	松本 京子 (92 菓字修) (生物)
監事	田嶋 忠志 (58 機械) (機械)
監事	矢島 政夫 (58 機械) (機械)

後記

技術士青葉会発足して二年半になり会報第2号を発行することになりました。会の性格上、それぞれの会員の皆さんが単独で活動されていることから、会員としてのメリットがなにかによって、会の維持継続が左右されると思います。

母校東北大学も同窓会を重視する一環として、毎年十月には「ホームカミングデー」を開催するようになりました。在校生や教員たちと先輩OB/OGの皆さんとの交流により、東北大学の素晴らしさを再認識できる機会です。様々な行事が計画されていますので、是非ともご参加いただければ幸いです。

今回は3名の会員から寄稿を頂きありがとうございました。他の会員の皆さんからの「寄稿をお待ちしております。」

(高橋)